

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第12号 2014年10月



## —目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
山沢清人先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
夏期海外研修報告	6
平成25年度活動報告	9
総会記録	11
平成25年度事業報告	12
平成25年度医学部保健学科同窓会決算書	13
平成26年度事業計画	14
平成26年度医学部保健学科同窓会予算書	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2014  
第12号

## 発展し続ける母校保健学科をしっかりと支えます！

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行  
(信州大学医学部 特任教授(教育))

2014年4月、保健学科12期生、大学院博士前期課程8期生、そして博士後期課程6期生を迎えて新年度が開始しました。また、金井誠学科長をセンター長として「地域保健推進センター」が設立され、4月22日(火)にはテープカットセレモニーが、また7月27日(日)には設立記念式典、記念講演会、そして記念祝賀会が開催されました。「地域保健推進センター」は、地域貢献の拠点形成と教育・研究環境狭隘化の改善を目的とする増築・耐震改修の中で産声を上げましたが、同時に『国立の教育研究機関としての存在意義の「可視化」』や、『大学のCenter of Communityとしての機能強化と、地域が抱える課題解決に向けた取り組みを行う中で得た知見の教育・研究への反映と教育研究の機能強化』を保健学分野で具現化するために中心的な役割を担っていくことが期待されています。

「地域保健推進センター」は、保健学科同窓会(現任教職員を含む)を基盤とする「地域保健推進センター設置基金管理組織」の多大な関与が求められる中で設立されました。同窓会員におかれましては、設置基金に関するご協力を重ねてお願いすると同時に、今後の「地域保健推進センター」の進展を見守って下さるようお願い申し上げます。

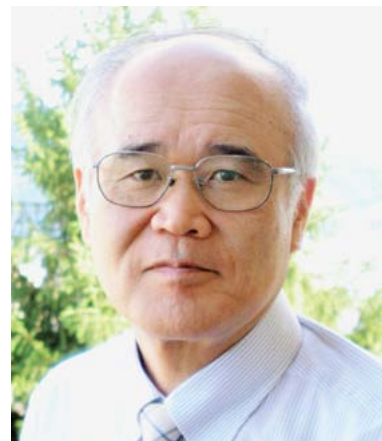
なお、北校舎に引き続き、中校舎の耐震改修工事が2015年3月竣工予定で着工されています。来年の同窓会総会には、耐震改修・増築工事が完了した保健学科を是非とも目の当たりにしていただきたいと思えます。

保健学科同窓会が所属する信州大学同窓会連合会とは別に、信州大学山沢清人学長の提案により誕生した「信州大学校友会」の設立記念式典、記念講演、そして交流会が8月3日(日)に開催されました。保健学科同窓会からは、会長の私と幹事で同窓会連合会理事の

奥村伸生先生、そして同じく幹事の横川吉晴先生が出席しました。

「地域保健推進センター」から研究活動等の組織的展開と情報発信が継続的に行われることを願いつつ、成

長し続ける母校保健学科、大学院保健学専攻の更なる進展のために、保健学科同窓会は支援活動を展開して行きます。また保健学科同窓会の存在感を実感しているところですが、信州大学同窓会連合会の構成員として、また信州大学校友会の構成組織会員として、これからも我等が同窓会は、信州大学同窓会連合会、信州大学校友会のメンバーとして、信州大学と共に歩んで行きます。





# 信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 山沢 清人

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

平成25年は、日経グローバル誌による「全国大学の地域貢献度ランキング」2年連続1位の獲得や、「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」中核拠点への採択、「博士課程教育リーディングプログラム」への採択及び「地（知）の拠点整備事業」への採択等、本学が教育、研究、地域貢献の面で高い評価を受けた年となりました。

保健学科に関連した事項としては、平成26年4月に保健分野での地域貢献の推進等を目的とした「地域保健推進センター」の設置が挙げられます。このセンターは、保健学科を中心として医学科、医学部附属病院、バイオメディカル研究所（平成26年3月設置）等との学内連携はもとより、様々な地域連携、社会連携を構築することで、関連機関・地域住民等との多様な連携に基づいた地域保健活動の推進を目指しています。具体的には、市民向け講座の開講や、行政、保健・福祉関連機関や企業との共同研究を行っていく予定です。

さて、高等教育を巡る動きを見ますと、平成24年6月の「大学改革実行プラン」、平成25年11月の「国立大学改革プラン」が示すように、グローバル化と少子高齢化の進展、新興国の台頭等による競争の激化等、急激な社会経済状況の変化へ対応するため、抜本的な改革が大学に求められています。

これに対し本学では、平成24年6月に設置した大学改革推進会議及びその下に設置した各WTIにおいて検討を進め、着実に改革を進展させてきました。本学の教育研究改革・組織改革である信大改革は、持続可能な社会の構築のためグローバルに力を発揮できる高度専門的な人材を育成することを目指すもので、大きくは「先鋭領域融合研究群構想」、「大学院課程の整備」、「学士課程教育の整備」そして「学術研究院構想」の4点となります。

## 1. 先鋭領域融合研究群構想

- カーボン科学、環境・エネルギー材料科学、ファイバー工学、山岳科学、バイオメディカルの研究領域に資源を集中させ、研究を先鋭・高度化。各領域の融合による新たな研究領域の創出
- 国内外から優秀な教育・研究者を配置し、高度な教育研究を展開。外国人研究者との接触により学生のグローバル化を推進

## 2. 大学院課程の整備

- 文理融合分野の設置を目指した総合工学系研究科（博士課程）の再編成
- 修士課程教育充実のための各研究科の見直し
- リーディング大学院の特別コース設置（修士・博士5年一貫の教育体系（プログラム）の構築）

## 3. 学士課程教育の整備

- 学生の主体的な学修をはじめとする、大学生としての基礎力を身に付けるための初年次教育・共通教育改革

- 知の学び(リベラルアーツ)と人間力の育成を目指した特色ある共通教育カリキュラムの構築
- 学部・学科(学系・課程)の再編
- 学位プログラム導入によるプログラム重視の教育の実現
- 学年暦の見直し等

## 4. 学術研究院構想

- 教員組織として「学術研究院」を設置し、人事の円滑化（流動性確保・戦略的人事）、研究推進の高度化、研究予算の戦略化・効率化を目指した体制を構築
- 教員は専門分野に応じていずれかの学系に所属。かつ、教育研究組織等における教育・研究・診療・運営には適任の担当が割り当てられる。これにより、柔軟かつスピーディな教育・研究体制の編成が可能となり、高度な教育研究を推進できる。

このうち、先鋭領域融合研究群については平成26年3月、学術研究院については平成26年4月に設置され、今後はこの新たな体制の下で更なる改革の進展、定着を図りたいと考えています。

最後に、平成26年4月から本格的に活動を開始しました、信州大学校友会と信州大学知の森基金についてご案内させていただきます。

まず、信州大学校友会についてですが、こちらは卒業・修了生をはじめ教職員、元教職員、在学生及びその保護者等、本学ゆかりの方々が「校友」として交流し、それにより構築されたネットワークを活用していただく場となる組織です。メールマガジンによる情報発信を行っているほか、今後は交流会の実施等も計画しております。ご登録は無料ですので、ぜひ会員にご登録いただき、校友の輪を広げていただきたいと思います。

続いて、信州大学知の森基金についてですが、こちらは学生の就学環境の整備をはじめとした教育、研究、地域連携、国際貢献を推進・深化させる活動を支援する目的をもつ基金です。当面は、学生や若手研究者の支援事業を行う予定ですが、支援の安定的な継続のため、より多くの方からご支援を賜りたいと考えております。

この校友会、知の森基金については、いずれもパンフレットをお送りいたしますので、ぜひ一度ご確認ください。

以上の通り、本学が国立大学に求められる役割を果たし、信大改革を確実に実現していくため、教職員一丸となって日々取り組んでおります。信州大学医学部保健学科同窓会の皆様にも、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同窓会名誉会長 **金井 誠**  
(信州大学医学部保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

本年4月より寺田教授から引き継いで保健学科長に就任いたしました金井誠と申します。ご挨拶の機会を設けていただきましたことに感謝いたします。私は昭和63年に信州大学を卒業して産婦人科医となり、現在に至るまで周産期医療を中心とした教育・診療・研究に務めて参りました。平成20年4月より保健学科で教鞭をとっております。

保健学科同窓会の皆様には、在校生の教育支援および学科運営補助に多大なご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。また本年は、校舎改修に関する学生教育環境整備に関する募金趣意書を郵送させていただきました。ご協力賜りました方々に重ねてお礼申し上げます。今後ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、募金期間を本年12月31日まで延長いたしました。できる範囲で構いませんので、是非とも格別のご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の会報でも前学科長が紹介しておりました「信州大学医学部地域保健推進センター」が本年4月に設置され、同窓会からのご支援もいただいて7月27日に「設立記念式典および記念講演会・祝賀会」が挙行されました。おかげさまで式典には来賓の文科省医学教育課長、松本市長、長野県保健・疾病対策課長様をはじめ、多くの市町村、医療・福祉機関、大学、関連職能団体から、そのほとんどで組織のトップクラスの皆様方にお越しいただくことができました。これも本センターおよび保健学科への期待の現れと感じております。千葉大学予防医学センターの近藤克則教授にも素晴らしい記念講演を頂戴することができました。

地域保健推進センターの活動としては、学内関連部局・行政機関・保健医療福祉関連団体・関連職能団体・企業等との多様な連携を図り、そのような連携の

中から浮き彫りになった課題を題材として、学部生・院生を対象とした教育・研究活動、地域で活動している医療職者を対象とした研修・教育、根拠に基づいた実践を推進するため



の研究活動など、組織的な展開を目指すとともに、地域住民を対象とした研修や啓発活動を行い、保健分野での地域貢献を推進していく計画です。すでにいくつかのプロジェクトが動き出していますが、本年9月末から12月にかけて火曜の18時から、地域住民や地域保健医療職者を対象とした『健康講座』を開催いたしますので、お近くの方はセンターの見学も兼ねてご参加いただければ幸いです。詳細はセンターのホームページをご覧ください (<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/> 信州大学医学部のホームページからリンクされています)。

また、昨年度から始まった2年間に渡る校舎改修・増築工事は、北校舎の改修と北校舎に隣接した地域保健推進センターの増築工事を終え、現在は中校舎の改修工事が行われております。来年の4月には新しい中校舎が完成いたしますので、同窓会の皆様におかれましては近くにお越しの際に、是非リニューアルされた母校をご覧くださいと思います。

保健学科長として、信州大学医学部保健学科ならびに医学系研究科保健学専攻のさらなる発展のため、誠心誠意尽力する所存です。皆様方のより一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 新入教員のご挨拶

### 自己紹介

平林 優子

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

4月より小児・母性看護学領域で勤務させていただくことになりました。臨床では総合病院で小児病棟、呼吸器内科病棟、看護教育部などに勤務し、大学に勤務するようになってからは、臨床の方と連携しながら、子どもたちの様々な健康状態への看護を模索してまいりました。



外来看護、慢性疾患の子どもたちへのサポート、在宅移行プログラムの作成、救急や家庭看護、がんの子どもの在宅ケアの調査などを行ってきました。また小児専門看護師が能力を発揮するための研究にも関わってまいりました。現在は在宅で生活する慢性疾患、障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもの支援について研究したり、学会等での活動をしています。子どもの在宅ケアのシステムはまだ不足しているところが多く、まだまだ家族の努力を中心に成り立っているため、社会的な支援体制を作っていくことが課題と考えています。今後は地域で病气や障害を持つ子どもたちと家族への役に立てるように努力していきたいと思えます。松本は私の故郷でもあります。日々表情を変化させる山々に包まれて暮らす豊かさを今はかみしめています。この地を大切にできるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

活背景などから、その看護がなぜ必要であるかという根拠を大切に、共に考えるような教育をしてきました。そのような一つ一つの看護技術を確実に行うことが、患者さんとの信頼関係を結ぶことにつながると考え、単なる手技としての技術教育にならないように努めてきました。学生は将来の看護を担っていく者であり、しっかりと教育すべき重要な存在です。臨床での経験や、臨床で応用できる看護の知識や技術を、これからの看護学教育に十分に役立てていきたいです。

教員歴もなく、至らないことも多いですが、教育、研究、大学運営などに、努力を怠らないように取り組んでいく所存です。ご指導よろしくお願い致します。

### 自己紹介

米山 美希

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

平成26年4月より小児・母性看護学領域に着任いたしました、米山美希と申します。



この地に生をうけ、以来数十年をここ松本で過ごしております。本学保健学科看護学専攻を卒業した後は、信州大学医学部附属病院にて助産師として勤めてまいりました。病棟勤務においては、助産師の仕事は妊娠・出産のみならず、女性やそのご家族の人生の一端に触れることができる素敵な仕事だと感じておりました。そのような中で勤務する日々は、生命の誕生に触れさせていただくと共に、命の重さ、尊さ、そして儂さをあらためて自分自身に問いかけることができた日々でもあったように思われます。

縁あって、本年度より母校である保健学科へ戻ることができました。耐震改修にてほんの少し学び舎の姿は違えども、其処彼処に懐かしさがよみがえります。そして、学ぶことの喜びに胸を躍らせていた日々を思い出させてくれました。

学ぶことができるというのは、大変恵まれた環境です。ここ信州大学には、知識を求める者にはこたえを得るための方法が所狭しと溢れています。

そんな信州大学の一員としての誇りを忘れずに、より一層研鑽に励みたいと思えます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

### 自己紹介

山口 大輔

(看護学専攻 基礎看護学領域)

今年度4月より基礎看護学領域の助教に着任いたしました。不慣れなことがとても多く、諸先生方にさまざまなことを教えていただきながら、日々を過ごしております。



私は、8年間、看護師として病院で勤務しました。入職して3年目からプリセプターとして新人看護師教育に携わってきました。コミュニケーション技術に始まり、シミュレーション機器を用いての技術教育や、患者さんの疾患だけではなく、生

## 夏期海外研修報告

オーストラリア

### カーティン工科大学短期海外研修に参加して 作業療法学専攻2年 志村 明宏

8月9日から8月30日までに及ぶ短いながらも充実した時間が過ぎて多くのことを学ぶことが出来ました。作業療法に関わる施設などは私が見たことのある日本の施設の何倍も大きく、広大な土地というオーストラリアの特性が最大に活用されているように感じました。大学の中の保健センターで薬の処方を受け、大学の中の薬局で薬を受け取ることが出来るカーティン大学はすごいと思いました。多くの施設が含まれており、大学で授業を受けることが楽しいでしょう。カーティン大学の作業療法の人たちはすごく親切で友好的でした。最後に添付する写真はそんな皆さんとお茶を飲んだ時に撮った写真です。初め訪れて思ったことは作業療法学（OT）だけに一つの棟があることへの驚きでした。敷地は保健学科棟全敷地よりも広く、4階建てだったと思います。トイレのドアは引っ張ると自動で開き、数秒で閉まるようになっており、施設にさえOT感が溢れていました。更に驚いたのは授業の風景です。学生は机のない部屋でマットに座り、ペアで発達段階の発現時期と反射反応の書かれた紙を並べ替えていたのです。私たちが座学で習い自習でやるべきところを従業の間にやっつけてしまっているのです。皆で試行錯誤しながらその表を完成させることで頭に残りやすくすると共に、何よりも楽しく勉学に励めるように感じます。さらに棟の中も充実していました。図書室はOT専用の物があり、そこには上肢の模型が動脈と神経の走行とともにあり学生は視覚的にそれを見直すことが出来、評価の道具等も置いてあります。信州大学にも先生たちの部屋にはそれに匹敵する本や物品が



置いてありますが、それを気軽に持っていけるということがカーティンでのいいところだと思います。棟そのものの大きさが違うので一概には言えませんが、授業する場にトイレやお風呂、キッチンなどの生活空間から、ADLを補助のための道具が多く並べられていました。また彼らに信州大学は病院と隣接していることを言ったらそれを羨ましがり、自分たちの境遇が少しでも向上することを望んでいるように感じました。まとめとして今回のプログラムに参加したことは自分にとって大きな前進になったと確信しております。海外の医療と日本の医療とを比較することが出来ましたし、自分から何か行動しなければいけないということにも気づけたからです。日本にいた時には感じなかったちいさなことさえも興味を持つことが大事であると考えようになりました。

オーストラリア

### カーティン工科大学短期海外研修に参加して 検査技術科学専攻3年 堀越 彩

私は今回初めての海外で、見るものすべてが新鮮で人生の中で一番充実した夏となりました。日本から今まで出た事なかった私は、全ての物事に対して日本を基準に比較してしまい日本の小ささと世界の大きさを実感しました。

私のホームステイ先はオーストラリアに住むイタリア人のホストマザーと中国人留学生と私の三人でした。最初はコミュニケーションを取る事に苦戦し、英語力も乏しかった私は英語を話す事に抵抗を感じるようになってしまいました。話す事が大好きなホストマザーに“あなたの英語力は乏しい。”と面と向かって言われた時は日本での勉強量の少なさを痛感しました。ですが、その後続けて“話す事が下手でも挑戦する事が大事。話す事を恐れないで。”という一言から、少しずつゆっくと、時に単語単語になってしまう時もありましたが私が話し終わるまで待ってくれ聞きとってくれました。最終日には“あなたの英語は上達した”と言ってくれたときは心から嬉しく思いました。

私のホストマザーは毎日違った料理を作ってくれ、每晚様々な国の料理を楽しみました。夕飯後は3人で話すことを欠かしませんでした。中国人留学生は流暢な英語を話し将来の夢をしっかりと持った女の子でした。私がホストマザーのネイティブな英語が聞き取れなく困っている時も分かりやすい英語に直してくれて何度も助けてもらいました。違う国に住んでいる子と交流を持てた事は私の中でとても大きなことでした。





また大学のプログラムで日本語を学んでいる現地学生との交流を持つ機会もありました。彼らもまた志が高く、話す機会を持てた事はとても良い経験となりました。私が日本に帰った今でも連絡を取り合い、内容はほぼ英語ですがその日に習った日本語を彼らは披露してくれたりします。異文化の人達とコミュニケーションをとることで私が持っていないような違った感性に触れる事ができ、英語力を上げる一つのきっかけとなりました。

また、現地学生と一緒に専門科目の講義・実習に参加し、また市内に出向いて医療施設の見学などをしました。現地学生は積極的に手を挙げ発言をしていたことにまず驚きました。日本とは違いあちらでは自己学習を重視しているようで、学生のモチベーションの高さを実感しました。講義は英語のスピードの速さと専門用語が飛び交い辞書を片手についていくのがやっとでしたが、講義内容は日本とほぼ同じな印象を受けました。

様々な人種が混ざり合う国、オーストラリアでたくさんの人と出会い沢山の事を学ぶ事が出来ました。いろいろな考え方を持った人達と触れ合う事は私自身を成長させるきっかけとなり、このプログラムに参加する事が出来て本当に良かったと思いました。この経験を無駄にすることなく、グローバル化の発展が著しいこの世の中に対応できる人になりたいと思う事ができ、一生忘れる事の出来ない経験をさせてくれた信州大学と両親に感謝の気持ちでいっぱいです。残りの学生生活に対するモチベーションも上がりました。この経験を生かしこれからの人生も充実させていきたいと思っています。

ネパール

## 短期海外研修に参加して

看護学専攻3年 森本 奈々恵

ネパールでの1週間は、私にとって本当に貴重な経験となりました。ネパールに行って一番感じたのは、人々

の温かさです。ネパールでのコーディネーターのサリタさん、COHW memberの方々、Mother Volunteerの方々、町の人々、今回お会いしたみなさん温かく私たちを受け入れてくださりました。ネパールの方と関わらせていただく中で、人と人との温かい関わり大切さ、お互いを理解して支え合う大切さを改めて学ばせていただき、私にとって大きな財産になりました。

今回、私たちは、2つの学校で手洗い、うがいの指導を行いました。前日に、現地の方に手伝っていただきながら、説明する文章をすべてネパール語に直したり、物品を準備したりしました。学校で、実際に子どもたちを前にやってみると準備していたネパール語の発音が難しく、うまく伝わらなかったり、物品を準備するのに人手が足りなかったりなど、たくさんの課題が見つかりました。しかし、現地のコーディネーターの方、学校の先生方、Mother Volunteerの方々が準備を手伝ってくださったり、私たちの伝えたいことを理解し、ネパール語で分かりやすく子どもたちに伝えてくださったおかげでプログラムを順調に進めることが出来ました。また、簡単なネパール語の単語を教えてもらい、私たちもその単語を使いながら身振り手振りを交えてプログラムを行うことで、子どもたちの理解も深まり、楽しみながら手あらいとうがいの方法を伝えることが出来たと思います。このことから、私たちだけで完璧にやろうとせず、まわりのサポートも受けながらプログラムを行うこと、また、現地の人々が自分たちで積極的に継続していけるようにサポートすることが非常に大切なのだということ学びました。

ネパールでの滞在中に、2つの病院を見学させていただけの機会がありました。この2つの病院を見学させていただけたことは、私はこれからどのような看護師にな



りたいか、患者さんにどのようなケアを行いたいか自分の中で深く考えるきっかけとなりました。異なった特色を持つ2つの病院でしたが、どちらの病院にもいいところがあり、日本以外の国で地域の病院を見ることで日本の病院とも比較し考えることが出来たのは本当によかったです。

見えないところでたくさんの方に支えていただいたおかげで、こんなにも素晴らしい経験が出来ました。この感謝の気持ちを忘れず、これからに活かしていきたいです。

シンガポール

## 短期海外研修に参加して

理学療法専攻3年 坂本 百合子

私たちは、研修の第1回目の参加者として看護・理学療法合わせて7人と引率の先生方2人でシンガポールへ行ってきました。

平日のうち4日は病院と大学の見学でした。1日目は英語を聞き取ることに必死で疲労困憊でしたが、最後の日には何となく何を言っているのかが分かるようになりました。英語を使えるかどうかで自分の世界がぐんと広がることを痛感し、もっとたくさんの人とコミュニケーションをとりたいと強く思いました。

今回の研修ではシンガポール総合病院（SGH）と国立大学病院（NUH）の2か所を見学しました。理学療法分野で強く印象に残った2点を挙げておきたいと思います。1つ目は理学療法室の個室です。日本の病院ではたいてい大部屋1つの中ですべて理学療法が完結してしまうけれど、見学に行ったシンガポールの2つの病院では部屋の中にさらに個室があり、パソコンと机、患者用と理学療法士用の椅子、診察用のベッドが備えてあり、理学療法士と患者が1対1で治療できるようになっていました。また理学療法室もいくつかの区画に区切られており、日本のように大勢の人の目に触れながら治療をする、という雰囲気ではありませんでした。



▲シンガポール総合病院

もう1つは心臓リハビリテーションです。日本では心血管系で理学療法がオーダーされることはあまりないのに、SGHでもNUHでも専用の心臓リハビリテーション室が入院フロアにあり、エルゴメーターなどの機材が多く備えられていました。またNUHでは理学療法部門の中に心臓リハビリテーション専門のチームがあり、外来患者も含めた運動指導と、一般市民まで対象にした講義を行っていました（私が見学したときは心疾患とエクササイズの有効性についての講義でした）。日本で積極的に病気の知識を、しかも専門家から直接教える病院があるだろうか…、と目を開かされる思いでした。

土日や平日の夜など時間が空いたときには、一刻も時間を無駄にたくなくてあちこち遊び歩きました。最初の土日はセントーサ島の水族館やウォーターパーク、ユニバーサルスタジオシンガポール。水曜の夜にはナイトサファリにみんなで繰り出し、最後の土日はそれぞれ思い思いに行きたいところへ出かけました。一人で行動していても大丈夫なほど交通の便が良かったり、国内どこもが安全であることも幸いしました。

特に夜のマリーナ・ベイは、夕暮れのフラワーガーデンから夜更けのマリーナ湾まで、色彩で満ち溢れていて感嘆するほどきれいで…。フラワーガーデン側からサンズホテルの中を通り抜けてマリーナ湾側に行く道すがら、夜景がきれいで何枚も写真を撮りました。でも写真にしてしまうとその美しさは枠の中に収まりきってなくて、言葉を尽くしてもやっぱりその場に行っていない人にはすべてを伝えることはできない、行った人だけが感じられる充実感というのがあるんだなと思いました。

観光、研修、どちらもとても楽しく、また身をもって感じる事が多くありました。この時期に、このメンバーで、シンガポールへ行けて本当に良かったと思います。一期一会、ずっと大切にしたい夏です。



## 平成25年度 活動報告

### 平成25年度保健学科同窓会からの支援について報告

重点予算は看護学専攻で使わせていただきました。

#### ①各ベッドのカーテン（黄色）（基礎実習室Ⅰ）

男子学生数と女子学生数が毎年異なるため、従来は学生のプライバシーを保護しての清潔ケアなどの演習スペース確保に難しいものがありました。各ベッド周囲にカーテンを取り付けることができたので、男女の人数に関係なく演習・更衣を行うことができるようになりました。

#### ②テーブル（看護実習室Ⅲ）

購入させて頂きましたテーブル等は、実習中に自己学習などの際に使用させていただいております。また、そ

他の物品につきましては、中校舎の改修後に産泊室にて使用させていただく予定となっております。

大変使いやすく、学生たちも学習しやすい環境となっている様子です。

耐震工事で各実習室はリフォームされましたが、実習室の設備は充足されない状況でした。その設備の充足、および看護は人数が多いこともあり、各講義・演習で使用する教材の購入に使わせていただきました。さらにさまざまな理由により、教員不足が生じ、教育に支障が生ずるため、一部実習補助者への謝金として使用させていただき、助かりました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



①各ベッドのカーテン（黄色）（基礎実習室Ⅰ）



②テーブル（看護実習室Ⅲ）



③ワイヤレスマイクシステム（看護実習室Ⅱ）



④時計（看護実習室Ⅱ）



⑤台車（看護実習室Ⅱ）



⑥各種視聴覚教材（成人看護学・心理・社会）

[その他] スクリーン、テーブル、いす各種、小児血圧測定用腕帯各種、血圧計、ドクターバッグ、ワゴン、テレビ、スライディングシート、フレキシベルト、滑り止めシート、足浴器、移乗用ボード、幼児蘇生人形、枕、バスタオルなど。

### 川上由行先生 最終講義

平成26年2月6日(木)

平成26年3月末をもって、検査技術学専攻の川上由行先生が退職されました。

平成26年2月6日(木)には 最終講義「旭キャンパスで学んだこと、そして考えたこと」が旭総合研究棟9階講義室において行われました。当日は、学内・学外関係者など多数のご参加をいただきました。



### 卒業祝賀会

平成26年3月25日(火)

平成26年3月25日(火)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。寺田学科長と各専攻の成績優秀学生です(看護学専攻・村田諒さん 検査技術科学専攻・堀敦詞さん 理学療法学専攻・松島祥帆さん 作業療法学専攻・金丸和代さん)。



### 大学院修了祝賀会

平成26年3月25日(火)

平成26年3月25日(火)に大学院修了祝賀会を開催しました。第三期の博士後期課程修了者は3名で、学位論文は以下の通りでした。

#### ・村田 和也さん

Hydrogen Peroxide Content and pH of Expired Breath

Condensate from Patients with Asthma and COPD

(喘息およびCOPD患者における呼気凝集液中の過酸化水素濃度とpHの検討)

#### ・小林 路子さん

Incidence of Legionella and heterotrophic bacteria in household rainwater tanks in Azumino, Nagano prefecture, Japan

(日本の地方都市長野県安曇野市における家庭用雨水貯留槽水中のレジオネラおよび従属栄養細菌の挙動)

#### ・竹澤 由夏さん

siRNA down-regulation of FGA mRNA in HepG2 cells demonstrated that heterozygous abnormality of the A  $\alpha$ -chain gene does not affect the plasma fibrinogen level

(siRNAを用いたHepG2細胞のFGA mRNA発現抑制実験は、フィブリノゲンA  $\alpha$ 鎖遺伝子のヘテロ型異常では血漿フィブリノゲン濃度を低下させないことを明らかにした)

### 特別講演

平成26年6月28日(土)

平成26年6月28日(土)、「アメリカにおけるダウン症の人のための医療最前線～新しい出生前診断の登場をふまえて～」をテーマに、ブライアン・スコトコー氏(マサチューセッツ総合病院医師)の公開講演会を開催致しました。学生ばかりでなく多数の市民の方々の参加もみられ、会場満員となりました。





## Topics

# 信州大学医学部「地域保健推進センター」 設立記念式典・講演会

平成26年7月27日（日）医学部「地域保健推進センター」多目的講義室にて、地域保健推進センター設立記念式典と講演会を行いました。式典では文科省高等教育局医学教育課の袖山禎之課長をはじめ多くの来賓の方々から祝辞をいただきました。続いて「Well-being（幸福・健康）な地域づくり」として、千葉大学予防医学センター近藤克則教授の記念講演会を開催致しました。



## 総会記録

### 平成26年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日時 平成26年6月28日（土）15時15分～

場所 旭総合研究棟9F講義室A/B

1. 保健学科同窓会会長(川上 由行 教授)挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(保険学科長)挨拶  
木村貞治保健学科学科長補佐より挨拶(代読)があった。
3. 議長選出  
信州大学臨床検査部 新井慎平氏が選出された。
4. 平成25年度事業報告及び決算報告について  
下里誠二幹事より事業報告があり、続いて柳澤節子幹事から決算について報告された。
5. 平成25年度記念事業等特別積立金・地域保健設置積立金について  
柳澤節子幹事より報告された。
6. 平成25年度会計監査報告  
小池聖子・小穴こず枝両監事より会計監査報告がなされた。  
以上平成25年度事業報告および決算報告、柳澤節子幹事より平成25年度記念事業等特別積立金・地域

保健設置積立金、平成25年度会計監査報告について質疑なく了承された。

7. 平成26年度会費納入状況報告書  
柳澤節子幹事より報告があった。
8. 平成26年度事業計画及び予算書(案)について  
下里誠二幹事より事業計画(案)について、柳澤節子幹事より予算書(案)について説明があった。  
[会費納入状況及び予算案についての質疑応答]
  - 記念事業等積立金および地域保健設置積立金の用途について
  - 会費納入率について
  - 同窓会の将来的な取り組みについて  
奥村伸生幹事より、「信州大学全体でも大学全体で同窓会を統一しようという動きがあったが実際には実現せず、別に信州大学校友会が発足した。現在の財政力からすると保健学科単独での取り組みには限界があるが今後検討していきたい」と説明があった。
9. 議長解任

# 平成25年度事業報告

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリア,カーティン大学短期留学プログラム)
- 3) 特別講演の開催
  - ・平成25年度 保健学科同窓会特別講演  
2013年6月22日(土) 旭総合研究棟9階  
テーマ:「『死』なんて、もっと遠いものだと思って  
いた ー大切な人を亡くすということ。  
医療者とのかかわりと。ー」  
講師:朱亀<sup>しゅかめ</sup> 佳那子 先生  
(フリーランス編集者・ライター)
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業生を迎えての懇談会補助
- 6) 卒業式・学位記授与式
  - ・祝賀会補助
  - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
  - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 7) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
- 8) 入試広報活動補助
  - ・キャンパス見学会補助
  - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 9) 学生課外活動支援
  - ・新入生合宿研修補助
  - ・松本ぼんぼん参加補助
  - ・学生、教職員ソフトボール交流会
  - ・学生のボランティア参加等の活動支援
- 10) 学習環境整備
  - ・学部学生支援  
看護学専攻 看護学実習室備品他
- 11) 地域保健推進センター設置基金の創設

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻:アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻:臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻:州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第11号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
  - ①平成25年度総会の開催  
平成25年6月22日(土) 15:15 ~ 16:15  
旭総合研究棟9階
  - ②理事会の開催  
平成26年6月9日(月) 18:30 ~ 20:30  
保健学科第一会議室
  - ③幹事会の開催  
平成25年8月29日(木) 18:00 ~ 20:00  
保健学科小会議室  
平成26年4月7日(月) 18:00 ~ 20:00  
保健学科小会議室
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
  - ・第16回信州大学同窓会連合会役員会  
開催日:平成25年7月27日(土)
  - ・第17回信州大学同窓会連合会臨時役員会  
開催日:平成25年12月14日(土)
  - ・信州大学同窓会連合会幹事会  
開催日:平成26年2月18日(水)
  - ・第18回信州大学同窓会連合会役員会  
開催日:平成26年2月22日(土)  
種々の議論の末、信州大学校友会が発足いたしました。
- 6) 信州医学振興会支援



# 平成25年度医学部保健学科同窓会決算書

## 収入

平成26年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	25年度予算額	25年度決算額	差 額
前年度繰越金	950,300	950,300	0
会 費(在校生)	870,000	870,000	0
会 費(新入生・3年次編入生・大学院生含む)	7,510,000	7,510,000	0
利 息	0	973	△ 973
合 計	9,330,300	9,331,273	973

## 支出

事 項	25年度予算額	25年度決算額	差 額	
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助	・図書購入費	700,000	700,000	0
	・学術国際交流推進経費	500,000	500,000	0
	・特別講演会経費	10,000	19,163	△ 9,163
	・実習指導者連絡協議会経費	150,000	216,249	△ 66,249
	・卒業祝賀会経費	300,000	197,928	102,072
	・卒業生記念品代	170,000	165,600	4,400
	・就職活動支援	50,000	0	50,000
	・入試広報活動経費	200,000	201,540	△ 1,540
	・学生課外活動経費	200,000	70,640	129,360
	・学習環境整備	2,400,000	1,830,340	569,660
	・地域保健推進センター設置基金	100,000	100,000	0
小 計	4,780,000	4,001,460	778,540	
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助	・アルプス会・桐の木会	1,400,000	1,400,000	0
	・臨嶺会	760,000	760,000	0
	・州嶺会	680,000	680,000	0
	・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
	小 計	2,841,380	2,841,380	0
3. 保健学科同窓会運営費	・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	63,000	63,000	0
	・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
	・同窓会総会等経費	300,000	242,164	57,836
	・事務処理等人件費	500,000	656,000	△ 156,000
	・通信費	40,000	42,024	△ 2,024
	・消耗品	80,000	159,868	△ 79,868
	・電気・電話使用料	30,000	32,865	△ 2,865
	・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
	・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
	小 計	1,533,315	1,694,446	△ 161,131
4. 予備費	175,605	20,630	154,975	
合 計	9,330,300	8,557,916	772,384	

収 入	9,331,273
支 出	8,557,916
差引残額(翌年度繰越額)	773,357

## 記念事業等特別積立金繰越額

平成26年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	24年度繰越額	25年度内訳			25年度繰越額
		年月日	収入	支出	
記念事業等特別積立金	3,532,231				3,532,231
利 息(8月)		25.08.19	298	0	3,532,529
利 息(2月)		26.02.17	282	0	3,532,811
保健学科同窓会10周年記念事業					3,532,811
計	3,532,231		580	0	3,532,811

## 地域保健設置積立金

平成26年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	24年度繰越額	25年度内訳			25年度繰越額
		年月日	収入	支出	
地域保健設置積立金	500,049				500,049
利 息(8月)		25.08.19	40	0	500,089
利 息(2月)		26.02.17	40	0	500,129
同窓会会費から		26.05.28	100,000		600,129
計	500,049		100,080	0	600,129

# 平成26年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア、カーティン大学短期留学プログラム)
  - 3) 特別講演の開催
  - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
  - 5) 卒業生を迎えるの懇談会補助
  - 6) 卒業式・学位記授与式
    - ・祝賀会補助
    - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
    - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
  - 7) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
  - 8) 入試広報活動補助
    - ・キャンパス見学会補助
    - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
  - 9) 学生課外活動支援
    - ・新入生合宿研修補助
    - ・松本ほんぼん参加補助
    - ・学生、教職員ソフトボール交流会
    - ・学生のボランティア参加等の活動支援
  - 10) 学習環境整備
- ・大学院学生支援
- ・学部学生支援
- 11) 地域保健推進センター設置支援
2. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
  - 1) 同窓会ホームページの運営
  - 2) 同窓会だより第12号の発行
  - 3) 同窓会総会および役員会の開催
    - ① 平成26年度総会の開催  
平成26年6月28日(土) 15:15～16:15 旭総合研究棟9階
    - ② 理事会の開催  
年1回(5～6月)
    - ③ 幹事会の開催
  - 4) 同窓会事務局の運営
  - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
  - 6) 信州医学振興会支援

## 平成26年度医学部保健学科同窓会予算書

平成26年5月31日現在(単位:円)

### 収入

事 項	26年度予算額	25年度決算額	差 額
前年度繰越金	773,357	950,300	△ 176,943
会 費(在校生)	1,305,000	870,000	435,000
会 費(新入生・3年次編入生・大学院含む)	7,290,000	7,510,000	△ 220,000
利 息	0	973	△ 973
合 計	9,368,357	9,331,273	37,084

### 支出

事 項	26年度予算額	25年度決算額	差 額
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・図書購入費	600,000	700,000	△ 100,000
・学術国際交流推進経費	400,000	500,000	△ 100,000
・特別講演会経費	100,000	19,163	80,837
・実習指導者連絡協議会経費	150,000	216,249	△ 66,249
・卒業祝賀会経費	250,000	197,928	52,072
・卒業生記念品代	170,000	165,600	4,400
・就職活動支援	50,000	0	50,000
・入試広報活動経費	200,000	201,540	△ 1,540
・学生課外活動経費	200,000	70,640	129,360
・学習環境整備	2,400,000	1,830,340	569,660
・地域保健推進センター設置基金	100,000	100,000	0
小 計	4,620,000	4,001,460	618,540
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・アルプス会・桐の木会	1,420,000	1,400,000	20,000
・臨嶺会	740,000	760,000	△ 20,000
・州嶺会	840,000	680,000	160,000
・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
小 計	3,001,380	2,841,380	160,000
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ	63,000	63,000	0
・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
・同窓会総会等会議費	300,000	242,164	57,836
・人件費	500,000	656,000	△ 156,000
・通信費	45,000	42,024	2,976
・消耗品	80,000	159,868	△ 79,868
・電気・電話使用料	35,000	32,865	2,135
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,543,315	1,694,446	△ 151,131
4. 予 備 費	203,662	20,630	183,032
合 計	9,368,357	8,557,916	810,441



# 同窓会役員

名誉会長：金井 誠 (医学部保健学科)	理事：検査技術科学専攻4名	嵯 啓介 (博士前期課程院生)
会長：川上 由行 (医学部保健学科)	大竹 洋輔 (検査技術科学専攻学生)	大学院(後期)1名
副会長：務台 均 (医学部保健学科)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	高橋 理沙 (博士後期課程院生)
理事：看護学専攻8名	川崎 健治 (医学部附属病院)	幹事：奥村 伸生 (医学部保健学科)
中西美佐穂 (医学部付属病院)	寺澤 文子 (医学部保健学科)	下里 誠二 (医学部保健学科)
中島可奈子 (医学部付属病院)	理学療法学専攻2名	柳澤 節子 (医学部保健学科)
青柳美恵子 (医学部附属病院)	清水 貴恵 (理学療法学専攻学生)	百瀬 公人 (医学部保健学科)
早川 雅子 (松本盲学校)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	横川 吉晴 (医学部保健学科)
三輪百合子 (長野県看護協会)	作業療法学専攻2名	監事：小池 聖子 (医学部附属病院)
坂口けさみ (医学部保健学科)	上田 勝也 (作業療法学専攻学生)	小穴こず枝 (医学部保健学科)
丸山 幸子 (看護学専攻学生)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	事務局：中山 秀子
徳永 彩乃 (看護学専攻学生)	理事：大学院(前期)1名	

## 信州大学医学部保健学科同窓会会則

### 信州大学医学部保健学科同窓会会則

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
  - 二 母校の発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

#### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
- イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
  - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
  - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という)の在学生及び卒業生
- 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という)の在学生及び修了生
- 二 特別会員
- イ 本学科教員
  - ロ 本学科元教員
  - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 1名
  - 三 理事 18名(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
  - 四 幹事 若干名
  - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
  - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
  - 四 幹事は、会長が委嘱する。
  - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
  - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

#### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。  
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。  
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

#### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。  
一 事業及び決算報告  
二 事業計画及び予算  
三 会則の制定及び改廃  
四 役員を選出  
五 顧問の推挙  
六 その他の必要事項  
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。  
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。  
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。  
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。  
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。  
第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数の

ときは議長がこれを決する。

- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。  
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。  
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。  
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。  
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。  
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

#### 第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。  
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。  
この会則は、平成16年4月1日から施行する。  
この会則は、平成19年4月1日から施行する。  
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

### 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

#### 附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。  
この細則は、平成16年4月1日から施行する。  
この細則は、平成19年4月1日から施行する。  
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

#### 編・集・後・記

ユースキン製薬株式会社2014年格言集から。「毎日の 気持ちが顔に なってゆく」よく家族に「もっとニコッと、笑顔が足りない」と言われます。この頃特に顔の筋肉が固くなっているの、毎日箸を咥えて笑顔を作ることにしました。「変わるの は 相手じゃなくて 自分から」人を変えるのは難しい、でも自分が相手に合わせて変われば・・・親や子どもとの間では自分の気持ちがすぐ言葉になってしま

い、うまくいきません。一番身近な人との関係ほど難しい? 「立つべきは 人の上より 人の役」同窓生皆様の日々の仕事は、人の役に一番立っていることだろうと思います。小生、これまで誰かの役に立っているような仕事をしてきたのか、はたして今できているのか自問自答の日々です。

保健学科 Y. Y.